

医系女子学生・研究者の キャリアパスを考える

先輩女性医師を囲んで

特別講演会 (17時～18時30分)

「女性医師のキャリア形成について」

恵谷 ゆり

大阪府立母子保健総合医療センター

消化器・内分泌科 部長



本セミナーでは、先輩女性

医師をお招きし、若き女子

医学生、研究者が渴望して

いる実体験に基づく情報と

良きロールモデルを教えて

いただきます

講師と参加者同士のネット

ワーク構築や交流を深めて

いただけるよう、茶話会を

開催します

「女子医学生サバイバル指南」

山本 明美

旭川医科大学 皮膚科学講座 教授



我が国の全医師数に占める女性医師の割合は増加傾向が続き、20歳代では35%を越えている。これらの女性が医師として第一線で活躍していくことは我が国の医療を支えるために不可欠だが、医師として研鑽を積む時期と、妊娠・出産・子育ての時期が重なることも多く、その両立に苦慮する女性は非常に多いのが現状である。院内保育所や病児保育、時短勤務など、子育て支援制度の改善は徐々に進んでいるが、医師の勤務環境の過酷さや強固な性別役割意識などが未だに大きな壁となっており立ち足はだかっている。また、子どもの有無にかかわらず、女性であるが故に研修や留学、昇進などのさまざまな場面で不利益を被ることも未だに珍しくない。
私は一九九六年から年に一回、阪大小児科関連の先生方と子育て支援会を開催し、小児科学会でも男女共同参画に関連した仕事を続けてきたので、その経験をみなさまと共有し、医師として、そして女性として充実したキャリアを形成するための方策について意見交換したいと考えている。

本講演では医学部の女子学生が卒業後、長く医療従事者として活躍していただくことを目的として、以下の3つの点をお話します。

- ① 女性医師の就業と結婚の実態。女性の生涯にわたる就業率が20代後半から30代にかけて低下する、いわゆるM字カーブは医師においてもみられるのだろうか。我が国における女性医師の結婚の実態はどうなっているのだろうか。
- ② 卒業後の道のり。新たに始まる専門医制度をふまえた時、女性医師が考えておくべきことは何か。
- ③ 旭川医大での取り組み。女性医師が働き続けるために必要な教育や職場環境はどういったものか、旭川医大の10年間の取り組みを紹介する。特に3年生に対するワークライフバランス授業、学内の育児サポート制度に焦点をあて、活動の成果を述べる。

茶話会 (18時30分)

お飲み物やお菓子を用意してお待ちしています

大阪大学吹田キャンパス

場所: 生命科学図書館4階AVホール

日時: 2017.2.24(金)

17:00～

参加費無料

主催: 大阪大学大学院医学系研究科
大阪大学大学院連合小児発達学研究所
大阪大学男女協働推進センター
問合わせ: 医学系研究科・連合小児発達学研究所
佐藤 真 TEL: 06-6879-3221